



CQM(超短期経済予測モデル)

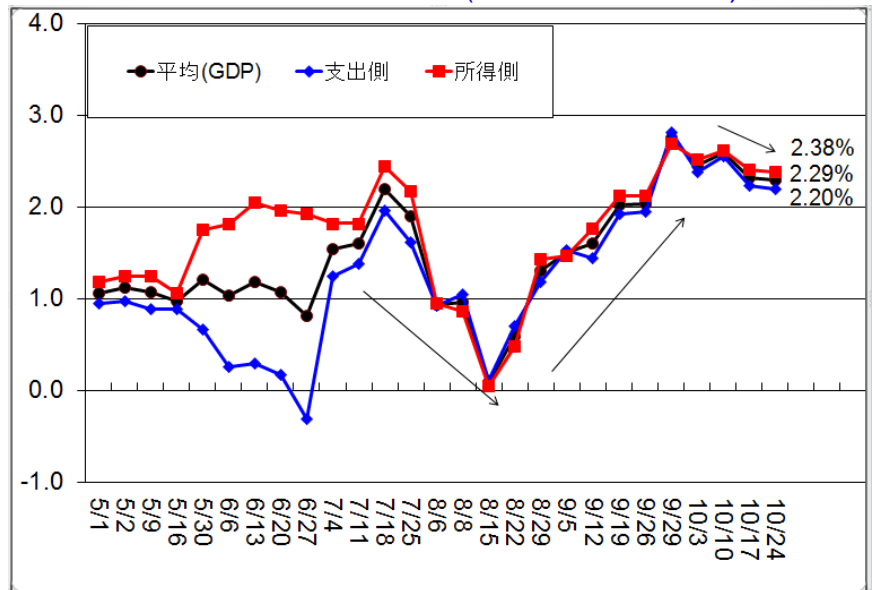
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2014年10月24日)

ポイント

- ▶今週の CQM が 2014Q3GDP (速報値) の最終予測となる。その予測値は 2.0%~2.5%の範囲と市場のコンセンサス(3.0%)からわずかに低くなっている(図表)。
- ▶実質GDPから景気を判断するとまさに連銀の言う“moderate growth”であるが、実質最終需要のような GDP以外のアグリゲート指標でみると、米経済の拡大により楽観的になれる。
- ▶10月29-30日のFOMCミーティングにおいて、連銀は景気拡大が順調に進んでいるとしてQE3による資産購入を今月末で終結することを決定するだろう。
- ▶しかし、連銀は株式市場の高いボラティリティー、世界景気のスローダウン、石油価格の下落、エボラ感染などから生じている米経済の不確実性の拡大に対して、如何に対処するかをFOMC声明で述べなければならない。

CQM 予測の動態：実質 GDP の成長率
2014年Q3(7-9月期) (%、前期比年率換算)



<2014Q3(7-9月期)の米経済成長率(速報値)の最終CQM予測は“Moderate Growth”>

今週のCQM予測は9月の消費者物価統計のみを更新した。10月24日のCQMは2014Q3(7-9月期)の実質GDP伸び率(前期比年率)を支出サイドでは2.23%から2.20%へ、所得サイドでは2.41%から2.38%へとそれぞれ下方に修正した。両サイドからの平均実質GDP伸び率は2.32%から2.29%へと下方修正された(図表)。ヘッドラインインフレーション(個人消費支出(PCE)価格デフレーター)は前期比年率で1.01%、前年同期比で1.43%。連銀エコノミストの言う連銀目標の2%インフレ率から“well below”ということになる。

今週のCQMが2014Q3の経済成長率の最終予測となる。CQMは10月30日に発表される経済成長率(速報値)を2.0%~2.5%の範囲に予測している(図表)。これは市場のコンセンサスの3%を幾分下回る。10月28, 29日のFOMCミーティングにおいても、連銀エコノミスト達は景気拡大のスピードを“moderate growth”と捉えるだろう。しかし、GDP以外のアグリゲート指標から経済動向をみると、経済動向により楽観的になれる。速報値GDPが発表される段階において、9月の企業在庫、輸出入がまだ発表されていないので、それらの値を経済分析局(BEA)は仮定しなければならない。それ故、GDPから在庫増を除いた実質最終需要の動向から経済をみることも重要である。CQM予測は実質GDPと同じように実質最終需要も8月半ばから堅調に拡大し、今週のCQMはその伸び率(2014Q3)を3.8%とかなり高く予測している。

10月28-29日のFOMCミーティングにおいて、連銀は景気拡大が順調に進んでいると判断し、10月末でのQE3による債券購入プログラムの終結を打ち出すだろう。しかし、連銀エコノミストは米景気に対する不確実性がここにきて急速に大きくなっている事実に対処せざるを得ない。これらの不確実性は、株式市場の高いボラティリティー、世界経済のスローダウン、石油価格の低下傾向などによってもたらされている。更に、エボラ感染者がニューヨークで確認されたことから、市場は消費者が外出や買い物を控えるようになり、個人消費支出の低下を市場は懸念するようになった。10月29日にFOMC声明が発表されるが、その中で連銀が今高まってきた米経済への不確実性にもどのように対処していくのかを知りたい。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690